

血糖値がちっとも
改善しない



糖尿病

セカンドオピニオン
受けるべき判断材料3つ

厚生省の「患者調査」(2011年)によると、糖尿病で治療を受けている患者数は約270万人。しかし、中には医師の言いつけで治療を続け、ちっともよくならない……と頭を抱える患者がゴマンといふ。思い当たる場合、セカンドオピニオンを受けた方がいい。

糖尿病は、長期にわたって治療を続けていかなければならない病気だ。インスリンなどの投薬や食事療法で血糖をコントロールしつつ、合併症に
糖尿病は、長期にわたって治療を続けていかなければならない病気だ。インスリンなどの投薬や食事療法で血糖をコントロールしつつ、合併症に

に意見を聞いてみるのはいいことだと思います。患者側が日頃から自分の状態をチェックしておくことが大切だ。セカンドオピニオンを受けるべき「判断材料」は3つある。

①頻繁に低血糖を起こされないケースも少なくありませぬ。治療を続けてもなかなかよくならないため、疲れ果てている患者さんいます」

たとえば、インスリンの分泌を促して血糖値を下げる「SU剤」という飲み薬がある。1950年代に発売されて以来、現在でも広く使われている薬だ。

ただし、SU剤は「低血糖を起しやすい」という特徴がある。現在の糖尿病治療では、低血糖を起させないことが重要視されている。低血糖を起すと、意識を失って転倒・骨折

たことば、インスリンを招いたり、心筋梗塞、の分泌を促して血糖値を下げる「SU剤」という飲み薬がある。1950年代に発売されて以来、現在でも広く使われている薬だ。

「日本人はインスリン分泌が低いことで糖尿病になるタイプが多い。その患者さんには、SU剤を少量だけ使って医師もいるのが現実で

住なら、東京都医療機関「さまざまなデータが掲載される内サービス」に「ひまわり」というサイトが参考になる。糖尿病専門医が「すばい」